寛永諸家譜

平氏十九冊之内

良文流

内閣文庫
番號 和 20199
冊數 186 (69)
函號 甲 76 1

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

三浦

佐原

三本

寛永諸家系譜伝

平氏

良文流

三浦

言望王

淺又信下　と信今

そもそも平の姓とたまふ

淺草文庫

良望
鎮守府将軍

良将
陸奥守将軍

将門
おなじ小次郎

自平親王と号さて

将頼
如義尼とも

将平

良兼
上総介　長田元祖

良繇
法寺府将軍

良文
村岡五郎　鎮守府将軍

良持

忠通

村岡将軍　小五郎

忠頼
村岡次郎　将門法を継ぐ

将恒
中村太郎

忠常
前下総介　四郎　子孫祖

国立公文書館
National Archives of Japan

常将
土佐小次郎

頼尊
山伏法師

為通
平太夫　長門守
しりめて三浦と称す

景通
遠倉権大夫

景成
遠倉土郎

景村
遠倉四郎

為継

平太郎

為俊

後河守

義継

義明

大助

治承四年八月廿七日頼朝ニ与力

志〻三浦衣笠の城ニ籠り

自害ス

義行

次郎清久井の祖

為清

三郎 葛西の祖

義實
四郎 畠山の祖

義忠
吉田余一
治承四年 肥後橋ひくちとひく
討死

義清
太屋小次郎

義宗
太郎 秋本の祖

義盛
和田太郎

義茂
和田四郎

国立公文書館
National Archives of Japan

宗實
杉本三郎

義亂
杉本四郎

常盛
太郎

義氏
二郎

泰秀
和夷名三郎

義直
金屋四郎

義信
六郎系

秀盛
七郎

義國
八郎

義澄
別當矢部と号す

義久
三郎大多和の祖

義喜
五郎多々良の祖

義季
八郎長井の祖

義連
十郎泰綱 早良の祖

女子
島山重忠が母

有綱
山吹郎

育村
山口三郎
[illegible]
山口二郎
義有
山口太郎

義村
法名信下平左衛門尉 後河守

重澄
大川戸大隅

胤義
平九郎判官

友澄
十郎

女子
大川戸太郎廣行の妻

朝村
子孫系図下ハ[illegible]

氏村

林式部大夫

泰村　おなじく自害

泰村

正月廿日　於建寺

宝治元年六月廿一日　人部合

五百余人右大将法華堂

おなじく自害

景村　駒王丸

父とおなじく自害

景泰

この外兄弟八人

光村

女子

矢部の尼　北条泰時室

女子
小笠原太郎が妻

女子
毛利入道西阿が妻

女子
中納言親秀の室

女子
律尼と号す

家村
四郎式部大夫

義行

證雲
律師

家康

女子
佐竹八郎が妻

資村

五郎太郎

長村

六郎太郎

重村

七郎太郎

盛村

八郎太郎

寅治令我ゝとふ

良賢

大律師

重時

九郎

源喩

律師

幸村

後河内

維村
二戸

家村
六戸 本家

女子

女子

貞村
六戸

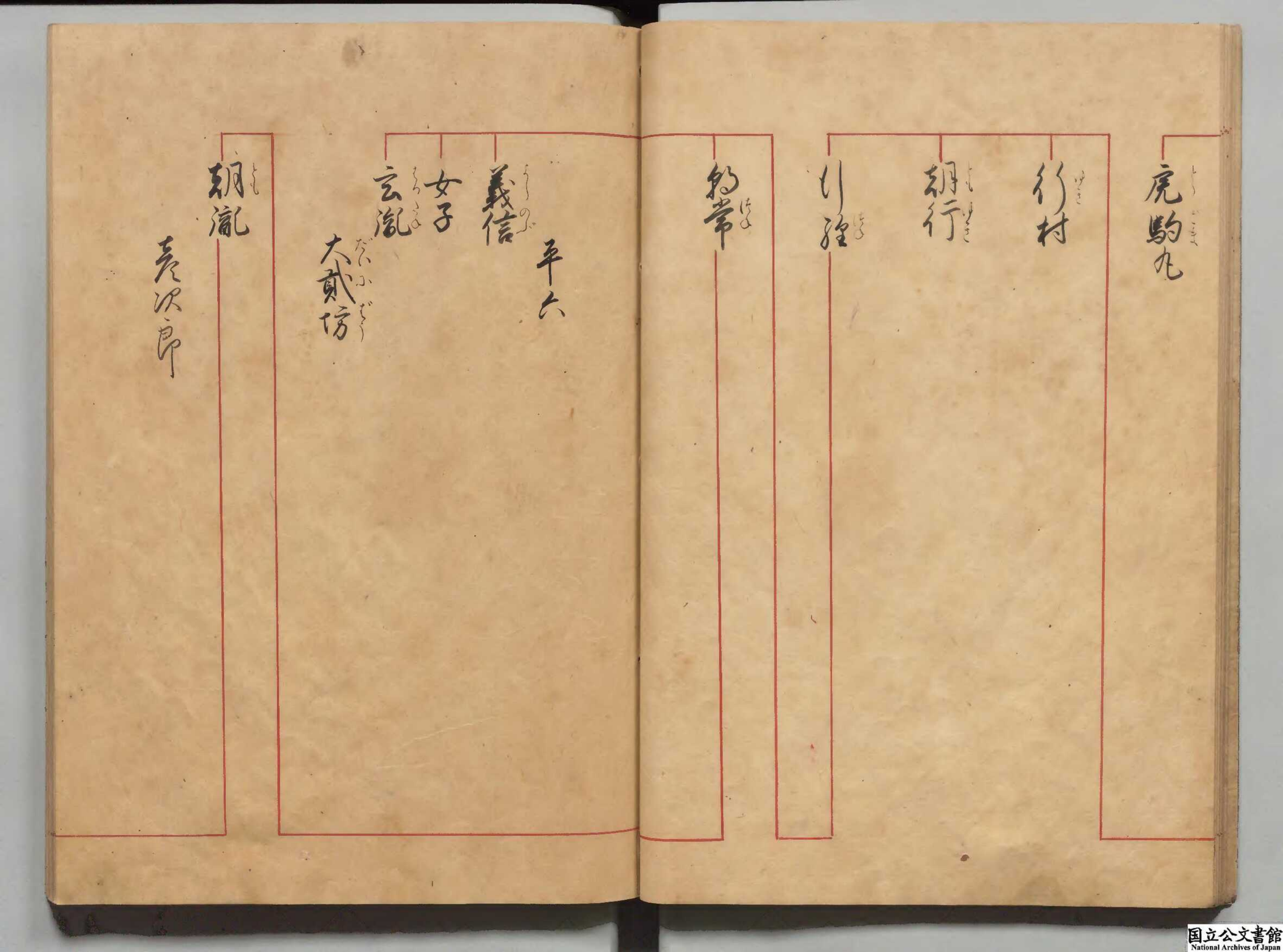
物村

貞村

有村
六戸

碁村
二戸 四郎

絲杉丸



- 虎駒丸
  - 行村
  - 胡行
  - 引強
- 勢常
- 平六
  - 義信
  - 女子
  - 玄渕
  - 大貳坊
- 胡渕
  - 長次郎

国立公文書館
National Archives of Japan

正亂
平太郎

重明
平四郎

正明
式部

重友

重村
出羽守元平六

正村
出羽守平兵

国立公文書館
National Archives of Japan

正重

又左衛門

正次

龜千代 甚太郎 左衛門

志摩守 従五位下 母は 土井大炊頭

利勝が妹

慶長十二年 はじめて

将軍家 に 面謁 し たまふる時

正次八歳

同十七年 約命 によりて 龜千代

あらため 土井甚太郎 と 号 して

元和三年 右命 と 為 て 左衛門

の尉 に 任 ず 汚井雅楽頭忠世

執申 也 左文字の腰刺 を 正次 に

授

同四年十二月 せられ たまふ

下総國夫婦神領村七百八十二石
の地をたまふ
同五年十一月
石清院殿と総國東金に清
寄物の記正次
将軍家より古使として東金に
いたる
同六年五月八日　東福門院清入内
のときの正次

将軍家の清使として神奈川の清
旅館　東福門院より古衣
をたまふ
同七年十一月
石清院殿東金に寄から
之海のときの正次
将軍家の清使として東金に
いたる
同八年正月　鈞命をもつて古小姓組

の組頭なり

同年松平源右衛門宮勝病あるとき

釣命として新たに京都へ上りしの

病死いたす

同年八月

将軍家河越へ御鷹の為に出馬

なり紀正次使者且伺

ものとして門越へ清使として江戸

へ

同年十一月上総国ふとべ江地

へ移る

同九年二月

将軍家へ上洛ありて河

越へ御鷹且清使として江戸

へ

三浦と称す

同年五月

台徳院殿御清上洛のとき

将軍家の命と義直後府の沙汰
被仰付江戸へ
呼寄せ仕候て京都へ
召寄せ江戸へ参候ハ
将軍家御上洛の供奉致列せ
黄金五百枚
の面羽織
同年七月京都へ
釣命を蒙り伊豆へ
志摩へ
伊任せ
釣命を以て沙
寛永元年
書院書の紅頭
同年十一月
地子石
同二年
同二年亟相忠長後河へ
出使
国の時
一文字の腰剣

同三年五月八日
右法院殿御上洛の節正次供奉
これ
将軍家の命によりて
右法院殿の御接遇と江戸下向
ありたり
同年
将軍家御上洛あり九月二條の
城にて行幸のとき

将軍家御迎として法条内あり
正次東帯騎馬にて供奉このとき
信樂殿御前にて侍従に給仕
の役をつとむ
同年九月十五日 崇源院殿薨去
のとき正次 右命をうけ
江戸に赴いて
京都におもむき
法事の供奉を
つとむ

同四年二月
将軍家河越へ
御成ありて
右の鴻巣に
御鷹ありたまふ時
将軍家の御使として清厳寺
へ指遣はしいらる
同五年四月
石淵院殿日光の社へ詣て給ふ
記

将軍家の御使として日光へ
いらる
同年十月
石淵院殿右の鴻巣へいらせ給ふ
記
将軍家の御使として清さうと
指来り鴻巣へいらる
同年十月　右の命をかうむり清
小姓組の番頭になりて日光へ

候と

同十一月上野国領地之

子石くまの

同六年一橋城端ニて宅地

とゝ為り且黄金三百枚たまふ

将軍家日光の社参ニて詣でたまふ

この時鶴毛の馬をたまひ

供奉

同年

将軍家江戸城へいでゝ諸侯

年賀あり この時紀伊賀として

台徳院殿より白銀五十枚たまはり

将軍家より黄金十枚とたまふ

同七年上野国かつ塩五千

石くまこまふ

同八年二月

将軍家江戸越より小紀

州へ下向せり

お目せり

なりて清使として江戸へ
同九年正月
石清水殿葬儀のとき紀清遺物と称
古くわらび毎小さき正次もまじり
白銀四百枚と有之
同年より　鈞命とかぬる同十八
ゟ一橋の江書状ありし
同十年東叡山の亀ていく
別墅

同年清范入来びて　柄鈴と毎
領を
同十一年六月　鈞命とう為
将軍家清と酒の肴
くまもり古古て候　六人乃数
列を而謂ゟ人は杉平伊豆守
信繩の部　其後忠秋三浦志摩守
正次　堀田加賀守正盛　太田備中守資宗
の部　義馬守重次ゟ

同年九月　約命をかうむり二九日
ゝ　菜庁式かまへ清菜を献し
國吉の雄剣一腰を捧
将軍家清菜悦の文あり　清桂
所式梅せ　多い上國後の清剣を
たまふ　恩賞といなべし
同十三日　約命をかうむり栗毛
の馬式献ず
同年十一月下総國小見川大和田
ゝ清加増五千石式たまはり
約合一万五千石と領ず
同十五年二月肥前國原の城一揆未
散ぜざるに付て西國大名共を
かゝむ　同二月十六日正次　約命を
かうむり原乃城式おもむき
阿部豊後守忠秋と使して正次
書ゝ
将軍家より庶子の清馬を詳領次

正次江戸と変すると石駕原川
をもって正次を殿に入れ原川乃清
将軍家伏見に達して趨進て
ひさしぶりさて盃献ずるとも宴興
過ぎ酒二月二十六日原乃城に
くらべ二十七日八日引候城とせあるて
くるるの賊徒を誅と甚晩正次
原乃城と発し同三月ある江戸に
いたるその事具に
上聞に
達せ
将軍家満感あり
同年十一月村田弥兵衛正次
と杉木民部少輔稙綱両人関中乃
宿直立番の法士と裁判をとり
伯耆守而已望請原のもと事
大小ともみな人ものとと
いたす

同十六年正月朔日ニ井大炊頭利勝
中風ト患ヒ給命ヲ以テ
利勝ノ病府ヲ日光ニ右ノ
居

同年正月十四日下野國壬生城
ヲ加増一万石ヲ給ハラル
紀合二万石ヲ以テ
同年五月朔日清勝ヲ壬生ニ
ヲ同二年ノ江戸ニ詰ル

同十七年二月十三日清勝ヲ壬生城ヲ
壬生ノ城ヲ松平忠良ニ
江戸ニ詰ル
同年四月
将軍家日光ヲ詣ル
正次伊予ニ十日 堂市ノ義
壬生ノ城ヲ 渡清ヲ正次清
勝ト献シ一文字ノ清剣
越前ノ絹二百把ヲ献ス

将軍家御感あるて黄金二千
枚御拾拾二千こしをたまふ西沢ゞ
家臣戸村摂津守義茂　鈎命ふ
ふくく

将軍家ふ毒御ふくまいらせ法
拾二匹羽織一領さて
同十八年九月十四日微恙ふかりて
同二十日病篤摂津守　鈎命て
ふ書とりけく病とりて又

同十月二十日病篤摂津守　仮成
ふふふ正次が宅てさふふ病
病とふふ同二十七日ふ卒ふとて
軍三道照院西林と号さて

安次
義子代　生国武蔵　母八坂式部の猫
亜くろ女
寛永十八年七月朔日ふじそて

将軍家より為御使
として安次九歳
同年十月二十七日又三次卒去
同十一月二十二日古井大炊頭殉死
仰命として姫君生の姫二万石を
つゑ八ヶ所の位を安次に告こと
いまし所服を乃そなたこの地へ
登城して及ばせ
同十二月二十八日死亡

将軍家より為御使
十枚を献ぜ
行平代君より黄
金五枚を献ぜ

芸次

長次郎　生國同所
寛永十八年七月朔日始て
将軍家へ御目見
芸次

七歳

同年八月ものはじめて

竹千代君へ毎謁し清小姓の数へ

引き

同年十月二十七日父正次卒して

同十一月廿五日大炊頭利勝

鈞命をうけ長沢として父の

所知の内五千石を賜ぜし

同年十二月二十八日

将軍家へ毎謁黄金二枚を献ず

同時

竹千代君へ毎たびごとに黄金

一枚を献ず

家乃紋九の内二引あ

国立公文書館
National Archives of Japan

三浦

胡村

高望十一代乃苗裔

朝信

朝久

四郎左衛門

宗久

太郎左衛門

宗久

喜左衛

能永

源次郎

能宗

次郎左衛門

能時

七郎兵衛尉

氏後

北条左京亮 三休
今川氏真子 武田
信玄ニ仕ふ信玄と義し玄
北条氏ふつゝ井ニ
大撞現ニ仕へ
寛永七年十月十七日病死
八十三法号 梅國喜春

号ニ

儀持

助茂 生國参河
大撞現ニ仕へ
寛永十一年正月七日病死

儀後

助義 生國同

大權現ゝ
法華院殿ゝ
元和四年四月八日ゝ病死
六十八　法名行心

忠俊

五郎左衛門　生國駿河
寛永二年ゝ
法華院殿ゝ

同九年
將軍家ゝ

久儀

助八郎　生國同ゝ
大權現ゝ
寛永十七年四月二十日ゝ病死

忠綱

清泉守　生国後河

大権現ゟ

台徳院殿

将軍家ゟ清へ

寛永四年大坂城書院ゟ

同七月十四日大坂ゟ病死

綱儀

清泉守　生国武蔵

寛永七年ゟ

将軍家ゟ清へ

家の紋三引

幕の紋中白

国立公文書館
National Archives of Japan

三淵

●三勝

雅樂助　生國後河

そもそも後冷泉義元てしたへ義元

逝去の仮

大樹現てしたへ去まつると

六十四年て死去　法名宗泰

正次

第十六代 生國周防

天正十四年

大樹現ずし給ひたるまつるを

もつて命ずる

石清水殿に近仕せしむ乃ち大樹

紅頸とまつりし 五十四ヶ年

死去 法名浄借

正宣

十七代 生國周防

寿長十七年

石清水殿につとめてまさしく清燒失

の間代書法たるむ 但大樹とまつり

ゝ三年也 ゝて死去 法名乃須

正之

八代 生國武蔵

元和七年
将軍家ニ御暇ヲ請ハ
清書院書院ハ大番ハ
ヲ以ハ二年一ヲ以テ死セ
清石圓寺

重良
八条 生国後河
実ハ名ハ左衛門沢ヲ号ス正ク

養子トナリ少ヘヨリ名ハ左衛ヲ改ク
三浦ト号セ
寛永十二年
将軍家ニ清ヘ参ル
為ニ
名ハ左衛の役ニ
正利
勘兵衛 生国武蔵

寛永七年

将軍家より頂戴

同十四年より大書をつとむ

家の紋（いへ）　丸乃内三引（まるのうちみつびき）

三浦

義次

小次郎　生國相模
今川氏真ゟ拝地ヲ賜フ
判形いまふ　法名宗見

元秋

八郎左衛門尉国司の氏真子にて父に劣らず戦功あり

こうしよりまさ　あるいはまさ　感状を賜ふ

ちゝいまだ幼少なり

天正元年

大膳亮小弓殿の御方

後刑部大輔京に住す

義勝

小左衛門尉国司の

元和三年より

石清水殿に参詣まゐり

寛永十七年

法名久澤

病死　年九

義景

小太郎 生國武蔵

寛永十六年 はじめて

将軍家へ御目見

家乃紋 丸乃内三引

三浦

直弘

[illegible] 生國三河

大權現[illegible]ちこの列

家[illegible]の代官[illegible]

順[illegible]と号[illegible]

[illegible]七年正月十三日七十三歳

法名常念

忠正

庶系　生國同所

元龜二年十一月の時より

大權現より　たくまつる

天正十八年小田原陣より　供奉

名古屋陣のとき　使番となる

寛永四年　同原陣より　供奉

忠次

その後　近江の

安國の内　代官となる

同十九年十月　四十二

より　死　法名宗牧

忠次

庶系　生國同所

寛永七年より

大權現より　御入国

石清水殿へ御参詣ありて
大酒を給はるべし

忠吉

正系　生國同所
元和六年より
石清水殿へ
将軍家へ召つかはるる

忠勝

元系　生國同所
寛永二年九月九日より
将軍家へ召つかはたてまつる大酒を
給はるべし

忠利

庶系　生國同所
元和八年十又歳にして

右法院殿ヲ号うくまろ大
書代りとも是ちこのこと
将軍家ヲ法へなり
寛永十年二月二十二日亥ヲ七ヨ
ちゝ死ス 法名道甘

亜成

市兵衛 生国駿河
寛永九年九月十九日ヲ一歳ヲ

将軍家ヲ号たくまろ小
十人組ヲ成ス
實ハ亜利書ヲ子ヒ
寛永十年亜利ヲ跡継大書ヲ勤

家の紋 九乃内ニ引

国立公文書館
National Archives of Japan

正本
三浦[illegible]市

●東

義同
三浦陸奥守　法名道寸

某

三浦道喜

時綱

正木弥沢郎

もゝぐめ正本と称ず　法名正慈

時茂

大膳亮　法名正純

時忠

右近太夫　法名正文

時通

羽望　法名日運

邦時

右近太夫　法名日正

国立公文書館
National Archives of Japan

康長

右馬允

里見安房守殿と安房国領地

を奪ひ取り江戸湾へ出張

大権現康長が兄三浦右衛門大夫

て康長をとめ殺こ[illegible]

右遠院殿へ[illegible]清書

院書とたとめ且古切米五百俵[illegible]

うのち

将軍家へ[illegible]

二百俵くまの郡七百

石俵[illegible]

家の紋　丸乃内三引

国立公文書館
National Archives of Japan

佐原

泰信

久吉ノ　生國遠江

吉久

勘右衛門

右流流殿ヨリ病死

良之

七葵

右滝院殿とゝ[illegible]び

将軍家ゟ[illegible]たてまつる

家代紋　丸の内二引

佐原

もと三浦の族なり本

元久

源昌吉 生國三河

元治

太郎吉秀 生國同上

元村

十嘉の生國因幡

寛永五年二月二日より

将軍家へ御目見仕

家の紋　九曲内に二引

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan